

地合いは好転しなかった。金融債(純増ベース)は485億円とほぼ前月(487億円)並みの水準となった。これは、利付債が期末月であるため金融機関からのスポット買いにより増加した反面、割引債は季節的な落込みもあって減少したことによる。また、新規長期国債の証券会社一般募集分(25億円、前月35億円)は、取扱い額が年度間の最低であったこともあって満額消化をみた。

4月の起債(純増ベース、国債、金融債を除く)は432億円とほぼ3月(436億円)並みの水準となる見込み。このうち事業債は、前年度からの繰延べ分を中心にほぼ3月債並みに希望額を圧縮するもの。なお、新規長期国債の市中引受け額は900億円(前年同月1,400億円)、うち証券会社一般募集分は35億円と決定された。

実体経済の動向

◆製品在庫率の上昇一服さみ

(生産——2月増加のあと減少)

鉱工業生産(季節調整済み)は、2月に前月比+1.8%とかなりの増加を示したあと、3月(速報、以下同じ)は-1.5%の減少となった。3ヵ月移動平均値によって月々のフレをならしてみると、11月+1.1%、12月+0.4%、1月+0.2%、2月+0.4%とこのところ生産の増勢に若干の鈍化傾向がみられるが、これにはトラック、乗用車の一部、標準モーター等の量産機械、家電製品等の品目で、在庫増加をながめてメーカーの生産態

度がいくぶん抑制ぎみとなっていることのほか、一般資本財や耐久消費財の一部における昨秋急増の反動減といった要因も少なからず響いているものとみられる。

最近の動きをやや詳しくみると、一般資本財は2月に化学機械、通信機械等を中心に+1.9%と増加したあと、3月は前月著増の化学機械が大幅な減少を示したほか、鉄鋼用ロール、機械プレス、標準モーター等の減少もあって-2.3%の減少を示した。資本財輸送機械は、2月は船舶、トラックがほぼ横ばいにとどまったにもかかわらず、産業車両、鉄道車両の著増から+3.3%とかなりの増加を示したが、3月はトラックの減少に加え、船舶、鉄道車両

も減少したため、全体では減少となった模様。建設資材は、2月に木材・木製品、建設用金属製品

起 債 状 況

(単位・億円、カッコ内は純増ベース)

	44 年					43年度	42年度
	2 月	3 月	前 年 月 同 期	4 月 見 込 み	前 年 月 同 期		
合 計	737 (458)	740 (436)	737 (26)	720 (432)	645 (293)	8,965 (5,340)	10,455 (5,705)
事 業 債	420 (289)	425 (281)	399 (△202)	430 (280)	373 (167)	4,952 (2,814)	5,498 (1,996)
一 般	254 (176)	269 (190)	247 (△127)	265 (187)	239 (117)	3,023 (1,771)	3,535 (1,410)
電 力	166 (113)	156 (91)	152 (△ 75)	165 (93)	134 (50)	1,929 (1,043)	1,963 (586)
地 方 債	67 (49)	68 (50)	70 (45)	65 (40)	62 (35)	781 (472)	838 (544)
政 保 債	250 (121)	247 (106)	268 (184)	225 (112)	210 (91)	3,232 (2,054)	4,118 (3,165)
金 融 債	1,726 (487)	1,826 (485)	1,499 (285)	2,114 (810)	1,677 (374)	22,213 (6,192)	19,054 (5,793)
利 付	682 (338)	767 (385)	619 (264)	904 (560)	717 (289)	8,905 (4,415)	7,543 (3,866)
割 引	1,044 (149)	1,060 (100)	880 (21)	1,210 (250)	960 (85)	13,307 (1,777)	11,511 (1,926)
新規長期国債	35	25	700	900	1,400	5,010	6,900
証 券 会 社 引 受 分	35	25	38	35	42	479	590

の増加から +2.9%とかなりの増加を示したあと、3月は金属製建具の減少を主因に -1.5%と減少。耐久消費財は、2月に家庭用電機、ラジオ・テレビ・音響機器、エアコンディショナーを中心に +5.1%と著増したあと、3月は -6.2%と大幅な減少を示したが、これは石油ストーブ、電気こたつ等の冬物製品が大幅な減少となったほか、冷蔵庫、洗たく機等が減少したことによるところが大きい。ただ、家電製品を中心に耐久消費財生産の季節性はこのところかなり変化しているとみられるので、このような3月の耐久消費財の生産減少が基調的なものとは必ずしも判断されない。非耐久消費財は、2月は食料品が3ヵ月連続の減少を示したほか、たばこ、医薬品等が減少したため、-1.0%の減少となったが、3月は +0.1%と微増を示した。この間生産財は、引き続き根強い増勢を示しており、2月 +0.5%のあと、3月も鉄鋼(粗鋼、普通鋼鋼材)、非鉄(電気銅、アルミ圧延品)等を中心に +0.5%の増加となった。

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	43 年				44 年		
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1月	2月	3月
鉱 指 数	148.1	156.1	162.4	169.9	169.9	173.0	—
工 前期(月)比	1.9	5.4	4.0	4.7	0.2	1.8	1.5
業 前年同期(月)比	17.2	18.4	17.5	17.6	15.8	15.9	15.5
投 資 財	3.0	5.6	4.4	7.3	-2.0	3.2	-2.2
資 本 財	0.8	6.5	6.0	7.7	-2.6	3.1	-2.8
同 (輸送機械を除く)	4.7	9.6	1.4	9.5	-0.4	1.9	-2.3
輸 送 機 械	-5.0	1.0	15.0	3.9	-4.9	3.3	—
建 設 資 材	8.3	3.1	0.6	6.8	-0.5	2.9	-1.5
消 費 財	-1.4	9.0	1.7	3.7	-0.8	2.0	-4.1
耐久消費財	4.4	10.8	5.1	6.3	0.3	5.1	-6.2
非耐久消費財	-3.1	5.4	-0.1	2.0	0.4	-1.0	0.1
生 産 財	3.8	2.4	5.3	3.6	2.5	0.5	0.5

(注) 1. 通産省調べ、44年3月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

(出荷——3月は船舶を中心に著増)

鉱工業出荷(季節調整済み)は、1月 +2.5%、2月 +0.2%のあと、3月(速報)も +3.4%とかなり

の増加を示した。もっとも、これには船舶などの大幅なフレが少なからず影響しており、例月フレの大きい船舶、鉄道車両、食料品を除いてみると、1月 +2.6%、2月 +0.9%、3月 +0.7%となる。

最近の動きをやや詳しくみると、一般資本財は2月に農業用機械、運搬機械等の減少にもかかわらず、化学機械、通信機械等の著増から +0.7%と増加を示し、3月も圧縮機・送風機、トラクター、工作機械、標準モーター等を中心に +3.0%とかなりの増加を示した。資本財輸送機械は、2月は船舶の反動減に加え、トラックも前月比横ばいにとどまったことから -5.6%と減少したものの、3月は船舶の著増を主因に相当大幅な増加を示した模様。建設資材は、木材・木製品、建設用金属製品を中心に2月 +2.0%と増加したあと、3月は金属製建具の反動減に加え、セメントが天候不順の影響もあって減少したため、-0.6%の減少となった。耐久消費財は、2月は乗用車が増加したものの、家庭用電機、ラジオ・テレビ・音響機器が前月に続いて減少したため -0.5%と減少し、3月も石油ストーブ、扇風機、掃除機等を中心に -9.3%と大幅な減少を示した。もっとも、

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	43 年				44 年		
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1月	2月	3月
鉱 指 数	146.6	154.1	157.3	162.7	166.8	167.1	—
工 前期(月)比	4.1	5.1	2.1	3.4	2.5	0.2	3.4
業 前年同期(月)比	16.6	17.9	14.8	15.9	13.7	13.9	18.5
投 資 財	9.4	5.5	1.3	4.9	2.0	-0.7	11.2
資 本 財	9.3	6.5	1.9	4.5	2.6	-2.0	14.7
同 (輸送機械を除く)	4.6	9.6	-0.4	9.5	2.2	0.7	3.0
輸 送 機 械	19.2	0.6	6.0	-3.3	1.9	-5.6	—
建 設 資 材	8.6	3.8	-0.8	5.8	1.1	2.0	-0.6
消 費 財	0.9	7.8	-0.2	2.9	3.3	1.1	-3.9
耐久消費財	1.8	12.2	7.3	2.7	1.2	-0.5	-9.3
非耐久消費財	-0.7	5.3	-2.6	3.3	2.2	1.7	-0.3
生 産 財	3.0	2.9	4.4	2.6	2.0	0.1	2.1

(注) 1. 通産省調べ、44年3月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

生産同様、耐久消費財の季節パターンはかなり変化しているとみられるうえ、3月の季節指数が前月比約3割増と著増していることからみて、基調的な減少とはみられない。非耐久消費財は、医薬品、食料品、たばこを中心に2月+1.7%と増加したあと、3月は-0.3%の減少。この間生産財は、2月微増(+0.1%)のあと、3月は鉄鋼(粗鋼、普通鋼鋼材)の著増に加え、非鉄(電気銅、アルミ圧延品)、硫酸等の増加もあって、+2.1%とかなりの増加を示した。

(製品在庫——増加テンポは若干鈍化)

鉱工業製品在庫(季節調整済み)は、2月は前月比+2.1%、3月(速報)+1.0%と引き続き増加したが、増加テンポは昨秋ごろに比べやや鈍化している。特殊分類別にみると、資本財輸送機械、非耐久消費財等の増勢鈍化が目だっているが、これにはトラック等における生産調整の効果も多少は響いているものとみられる。なお、これに伴い製品在庫率指数も、2月95.5のあと3月には93.3と-2.3%の低下を示し、昨年秋ごろの水準にもどった。もっとも、船舶、鉄道車両、食料品等フレの大きい品目を除いた在庫率指数では、2月92.5、

3月92.8とわずかながら上昇を続けていることとなるが、昨年秋口から年末にかけて大幅に上昇した製品在庫率は、このところ上昇テンポがかなり鈍っている。

最近の動きを特殊分類別にみると、一般資本財は、2月にトラクター、金属加工機械、標準変圧器等が減少したにもかかわらず、風水力機械、農業用機械、事務用機械、標準電動機等の増加から+2.9%と増加したあと、3月も風水力機械(ポンプ、圧縮機・送風機)、農業用機械(耕運機、脱穀機)を中心に+1.3%の増加を示した。資本財輸送機械はトラックを主体に2月+6.4%と増加したあと、3月はトラック等の生産調整の効果もあって相当大幅な減少となった模様。建設資材は、天候不順による窯業・土石製品(セメント、ガラス)、建設用金属製品の出荷伸び悩みも響いて、2月+5.6%、3月+4.3%と増加を続けた。耐久消費財は、2月にラジオ・テレビ・音響機器が2割もの大幅増加を示し、家庭用電機、乗用車もかなりの増加となったため+3.3%の増加を示し、3月もエアコンディショナー、テレビを中心に+4.8%の増加を示した。非耐久消費財は食料品、たばこ、医薬品を中心に2月-3.2%と減少したあと、3月も-2.9%の減少。この間生産財は、2月は鉄鋼、非鉄、一般機械部品等を中心に、また3月是非鉄(伸銅品、アルミ圧延品)、化学品(ポリエチレン等)を中心に、それぞれ+2.9%、+1.4%の増加となった。

以上のような出荷、在庫の動きを映じて、製品在庫率指数は2月95.5のあと、3月は93.3と昨年10月ごろの水準にもどった。

2月の製造工業原材料在庫(季節調整済み)は、前月比+0.2%の微増を示し、7か月連続の増加となった。業種別にみると、金属製品が4か月ぶりに増加に転じたほか、機械、鉄鋼、皮革、繊維等が増加したが、反面非鉄金属、石油等では減少を示した。この間、原材料消費は非鉄金属、機械、窯業、石油製品等を中心に-0.2%とわずかながら減少したため、2月の原材料在庫率指数は86.6、

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	43 年				44 年		
	3月	6月	9月	12月	1月	2月	3月
鉱工業							
指数	132.4	135.9	143.2	156.0	156.3	159.6	—
前期(月)末比	6.6	2.6	5.4	8.9	0.2	2.1	1.0
前年同期(月)末比	21.9	22.1	23.6	25.4	24.3	23.6	23.4
製品在庫率指数	90.3	88.3	89.8	95.9	93.7	95.5	93.3
投資財	7.8	2.3	11.9	11.4	0.2	4.6	-1.0
資本財	12.2	6.0	13.8	11.4	2.4	3.4	-2.2
同(輸送機械を除く)	4.4	2.4	6.4	13.6	2.3	2.9	1.3
輸送機械	47.9	33.7	42.3	10.9	3.2	6.4	—
建設資材	4.5	2.1	9.6	11.6	-2.1	5.6	4.3
消費財	5.8	6.4	6.5	12.1	-3.1	-0.5	1.1
耐久消費財	14.5	10.5	8.4	16.3	-4.3	3.3	4.8
非耐久消費財	0.4	5.1	3.9	6.7	-2.0	-3.2	-2.9
生産財	5.7	1.4	1.5	4.5	3.5	2.9	1.4

(注) 1. 通産省調べ、44年3月は速報。

2. 前年同期(月)末比は、原指数による。

前月比 +0.4%と小幅の上昇を示した。

1月の販売業者在庫(季節調整済み)は、+3.2

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	43 年			43年 44 年		
	6月	9月	12月	12月	1月	2月
在庫指数	130.1	131.3	140.1	140.1	142.7	142.9
前期(月)末比	-2.5	0.9	6.7	2.6	1.9	0.2
国産分	-4.0	-2.0	6.3	1.9	1.4	0.8
素原材料	-7.9	-1.7	11.0	3.0	2.3	-0.3
製品原材料	-2.5	-2.0	4.4	1.5	1.1	1.2
輸入分	2.0	10.2	8.2	5.1	3.4	-2.2
素原材料	2.4	10.8	7.7	5.3	3.4	-2.0
在庫率指数	86.4	83.5	87.2	87.2	86.3	86.6
国産分	84.0	78.6	82.2	82.2	81.1	81.9
素原材料	96.2	91.3	99.1	99.1	98.4	99.4
製品原材料	82.5	77.0	79.2	79.2	77.9	78.9
輸入分	95.8	103.2	103.4	103.4	104.0	102.1
素原材料	96.5	105.2	105.3	105.3	106.0	104.2

(注) 通産省調べ、44年2月は暫定。

製造工業原材料消費の推移

(季節調整済み、前期(月)比増減率・%)

	43 年			43年 44 年		
	4~6月	7~9月	10~12月	12月	1月	2月
製造工業	1.3	4.0	2.7	1.0	2.8	-0.2
国産分	1.7	4.1	2.4	0.8	2.8	-0.1
素原材料	2.6	3.7	3.2	0.9	3.0	-1.2
製品原材料	1.6	4.2	2.4	0.8	2.7	0
輸入分	-2.6	2.8	4.7	2.8	2.8	-0.4
素原材料	-1.9	3.1	3.9	2.6	2.8	-0.3
製品原材料	-9.3	-1.4	14.6	3.5	3.9	-2.9

(注) 通産省調べ、44年2月は暫定。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	43 年			43 年 44 年		
	6月	9月	12月	11月	12月	1月
総合指数	126.0	142.4	147.9	147.4	147.9	152.7
前期(月)末比	-3.6	13.0	3.9	3.4	0.3	3.2
素原材料	0.9	30.2	1.1	5.0	1.2	-3.2
製品	-3.9	11.5	4.5	2.9	0.7	3.6

(注) 通産省調べ、44年1月は暫定。

%と引き続き増加した。品目別にみると石油製品、糸、織物、非鉄金属等の増加が目だったが、反面自動車は小型トラックの減少を主因に7ヵ月ぶりに減少したほか、民生用電機、鋼材、生ゴム等もかなりの減少を示した。

(設備投資——機械受注は伸び悩み)

設備投資動向に関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み)の動きをみると、1月前月比+2.2%、2月+0.7%と増加を続けたあと、3月(速報)も+3.0%とかなり大幅な増加を示した。もっとも、1~3月をならしてみると前期比+2.4%と、10~12月(同+9.5%)に比べて伸び率の鈍化がみられる。

次に先行指標である機械受注(海運を除く民需、季節調整済み)は、1月+0.9%、2月+0.6%のあと、3月は-2.4%と減少を示した。この結果1~3月では前期比-4.3%と、昨年1~3月以来4四半期ぶりの減少となった。3月の動きを受注先業種別にみると、製造業では繊維、化学、石油等で増加した反面、紙パルプ、窯業、機械(自動車)等からの受注が減少したため、全体では前月比+0.1%の微増にとどまり、他方非製造業では、電力を中心に-1.9%の減少を示した。なお、4~6月の機械受注見通し調査によると、船舶を除く民需(季節調整済み)で1~3月の実績比+16.4%の増加を示すものと見込まれている。

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	43 年			44 年		
	7~9月	10~12月	1~3月	1月	2月	3月
民需	1,668 (9.2)	1,710 (2.5)	1,719 (0.6)	1,593 (1.1)	1,826 (14.7)	1,738 (-4.8)
同(海運を除く)	1,533 (11.9)	1,580 (3.0)	1,512 (-4.3)	1,518 (0.9)	1,528 (0.6)	1,492 (-2.4)
製造業	872 (14.5)	860 (-1.3)	873 (1.5)	897 (16.3)	861 (-4.1)	862 (0.1)
非製造業	807 (6.7)	860 (6.6)	850 (-1.2)	699 (-14.7)	987 (41.2)	866 (-12.2)
同(海運を除く)	669 (13.0)	739 (10.5)	641 (-13.0)	605 (-19.6)	666 (10.1)	653 (-1.9)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

◇商品市況は鉄鋼の急騰を中心に総じて強含み

最近の商品市況は、鉄鋼が3月中旬から4月中旬にかけて著しい騰勢を示したほか、そ毛糸、銅も続騰した。一方、軟調を続けていた綿糸、スフ糸、生糸がようやく下げ止まりないしは小反発を示し、ガソリン、上質紙等にも底値観が台頭するに至った。

鉄鋼の値上がりは、欧州向けの輸出成約進捗と船積みの増大とを背景にしたメーカーの店売り分出荷削減や、問屋の先高観による売り渋りなどから、市中玉の不足が著しくなったことによるものである。もっとも、4月後半には、高値警戒気運が強まり、一部に利食い売りも出て、騰勢一服あるいは小反落を示した品種(鋼板類、山形鋼等)もあるが、すでに市中在庫が少なくなっているうえ、輸出の好調から市中玉ひっ迫が続き、当面堅調に推移するものとみられている。

その他の商品の下げ止まりないし小反発は、需要期入り(綿糸、上質紙)、設備修理などによる供

給抑制(石油製品)、メーカー在庫の減少(綿糸)、メーカー市販一巡(スフ糸)などによるものである。これら商品の市況先行きについては、需要最盛期入りに伴う荷動きの活発化、ユーザーの在庫補充などが期待される反面、増産意欲が依然根強いこともあって、ただちに大幅上伸に結びつくことはなく強含み程度で推移するものとみられている。

品目別の動きをやや詳しくみると、鉄鋼では、鋼板類、山形鋼等が前記のように3月中旬から4月央にかけて急激な値上りを示し、2年ぶりの高値を示現、その後高値警戒観が強まって騰勢一服ぎみとなった。この間、山形鋼等に比べて出遅れた棒鋼は、割安観が強まってじり高商状を続けた。繊維は、そ毛糸が続騰、綿糸、スフ糸、生糸が下げ止まりないし小反発商状を示すなど、やや小じっかり場面がみられた。人絹糸、そ毛糸、生糸等では市況対策が続いているが、市場人氣もここにきてかなり好転しており、そ毛糸では商社の

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウエ イト	下降期 (ピーク 43/2) 43/2 →43/7	上昇期 (ボトム 43/7) 43/7 →44/3	前年度比上昇率		最 近 の 推 移							
				42年度 平均	43年度 平均	44 年			44 年 3 月				
						1月	2月	3月	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
総 平 均	100.0	- 0.9	+ 1.3	+ 1.5	+ 0.6	保合	+ 0.1	+ 0.3	+ 0.1	+ 0.1	保合	+ 0.1	+ 0.1
食 料 品	15.7	+ 1.8	+ 3.2	+ 2.9	+ 5.2	- 0.5	保 合	+ 1.0	+ 0.4	+ 0.3	- 0.1	+ 0.3	- 0.1
繊 維 品	10.7	- 1.7	- 2.4	+ 5.7	- 0.9	- 0.1	- 0.7	- 0.2	+ 0.1	- 0.3	+ 0.1	- 0.3	+ 0.4
鉄 鋼	9.7	- 1.7	+ 0.7	- 3.0	- 4.4	- 0.5	+ 0.1	+ 0.2	保 合	+ 0.4	+ 0.1	+ 0.8	+ 1.0
非 鉄 金 属	4.4	- 9.5	+ 7.8	- 8.6	- 0.5	+ 1.3	+ 1.4	+ 0.2	+ 0.1	- 0.1	+ 0.6	+ 0.8	+ 1.2
金 属 製 品	3.8	- 0.6	+ 1.7	+ 2.4	+ 0.7	+ 0.1	保 合	保 合	保 合	保 合	保 合	+ 0.1	+ 0.1
機 械 器 具	22.1	+ 0.3	- 0.4	+ 0.4	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.1	- 0.1	- 0.1	保 合	保 合	- 0.1	保 合
石 油 ・ 石 炭	5.6	- 4.1	- 0.8	+ 0.8	- 1.3	- 0.3	- 0.3	- 0.2	保 合	- 0.1	+ 0.1	保 合	- 0.1
木材・同製品	6.2	- 1.2	+ 5.4	+ 10.3	+ 5.2	+ 1.5	+ 0.6	- 0.1	保 合	- 0.1	- 0.3	- 0.5	- 0.5
窯 業 製 品	3.0	+ 0.8	+ 1.5	+ 3.1	+ 1.8	+ 0.1	+ 0.3	+ 0.2	保 合	+ 0.2	+ 0.4	- 0.2	保 合
化 学 品	7.6	- 1.6	- 0.3	- 1.4	- 2.2	- 0.2	保 合	+ 0.3	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.1	保 合	保 合
紙・パルプ	3.4	- 0.6	+ 0.3	+ 0.7	- 0.9	+ 0.2	- 0.3	- 0.1	- 0.1	+ 0.1	- 0.1	+ 0.4	保 合
雑 品 目	7.9	同水準	+ 2.4	+ 2.6	+ 0.9	+ 0.2	+ 0.2	+ 0.7	+ 0.6	保 合	+ 0.2	保 合	保 合
工 業 製 品	82.0	- 0.5	+ 0.9	+ 0.7	+ 0.3	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.1	保 合	保 合	+ 0.2	+ 0.2
うち													
大 企 業 性	59.6	- 0.5	+ 0.1	- 0.6	- 0.4	保 合	- 0.1	+ 0.1					
中 小 企 業 性	21.0	- 0.1	+ 2.3	+ 3.8	+ 2.2	+ 0.4	+ 0.4	保 合					
非 工 業 製 品	18.0	- 2.4	+ 2.8	+ 4.9	+ 2.1	- 0.2	+ 0.1	+ 0.7	+ 0.3	+ 0.3	- 0.2	- 0.1	- 0.1

(注) 本行調べ。

投機的な買い進みさえみられるに至っている。また、綿糸、スフ糸もメーカー在庫の減少あるいはメーカー市販一巡もあって底値観が広がり、糸商間には押し目買いムードの台頭もみられる。先行きについては、ユーザー側の手持ち在庫が少ないこと、糸の引取りがいくぶん好転していることなどから、今後のユーザー側の在庫補充に期待を寄せる向きも少なくない。非鉄では、銅の需要が主力の電線、伸銅メーカーの買い控え態度が続いて停滞しているものの、市況は海外相場の高騰を映じて続伸し、米国の産銅スト終了時(43年3月)以来の高値を記録した。石油製品では、灯油が一部メーカーの設備定期修理、2月並みの需要好伸で下げ止まりぎみとなったほか、ガソリンにメーカーの出荷手控えもあって底値感が台頭。建材については、セメントが荷動きの本格的回復に至らず、また先行き供給過剰懸念もあって弱含み、木材も3月の天候不順による需要低調や産地の出し急ぎなどから市中在庫が増大したため弱含みに推移した。化学製品は、基礎薬品の一部(硫酸)が必要堅調で強含み、合成樹脂のうちポリエチレンが、欧州向けを中心とした輸出成約の急伸を背景にメーカーの態度が一段と強まって値上がりとなった。紙では、板紙が堅調を持続、洋紙は引き続き軟調ながら、上質紙が必要期入りもあって底入れ観台頭。砂糖は、在庫過剰などから反落した。

(3月の卸売物価——大雪の影響もあって大幅上昇)

3月の卸売物価は、総平均で前月比+0.3%と昨年9月以来の大幅な上昇を示した。これは、大雪の影響による鶏卵の急騰などから食料品が著しく値上がりしたほか、雑品目(自動車タイヤチューブ)、化学品(ポリエチレン)、鉄鋼(形鋼、鋼板)等が上昇したためである。なお、繊維品は綿関係を中心に軟調を持続した。産業別分類では、工業製品が大企業性製品(鋼材、ポリエチレン、自動車タイヤチューブ)の値上がりから前月比+0.1%上昇し、非工業製品も農林水産生産物(鶏卵、輸入原木)を中心に前月比+0.7%上昇した。

43年度平均の上昇率は、+0.6%(年度末の前年度末比では+0.5%)と前年度の上昇率+1.5%(同+1.3%)をかなり下回った。品目別にみると、食料品(米、酒、たばこ、豚肉、粗糖)をはじめ、木材・同製品(原木、木製品)、窯業製品(陶磁器)等が高騰した反面、鉄鋼(鉄くず、棒鋼)、繊維品(羊毛、綿糸、まゆ)、化学品(工業薬材、合成樹脂)、紙・パルプ・同製品(白洋紙)等が下落した。

4月にはいつてからも、上旬中は前旬比で+0.1%、中旬も同+0.1%と上昇を続けた。これは、鉄鋼、非鉄金属が大幅に続騰したためで、この間、木材・同製品は続落した。産業別分類では、工業製品が上・中旬とも前旬比+0.2%の上昇となった反面、非工業製品は上・中旬とも前旬比-0.1%の下落を示した。

(3月の工業製品生産者物価——引き続き保合い)

3月の工業製品生産者物価は、総平均で引き続き保合いとなった。品目別にみると、食料品(砂糖)、雑品目(自動車タイヤチューブ)が続騰、化学品(硫酸、ポリエチレン)、普通鋼鋼材(形鋼)が反騰した反面、繊維関係をはじめ石油・石炭・同製品(灯油、液化石油ガス)、電気機械器具(冷蔵庫、カラーテレビ)等が低落した。

なお、43年度平均では前年度比+0.3%の上昇となった。

(4月の消費者物価(東京)——大幅に続騰)

4月の消費者物価(東京)は、総平均で前月比+1.3%と引き続き大幅上昇を示した。これは、教育費、映画観覧料、入浴料などの値上がりを映じた雑費の高騰が主因となっており、このほか、野菜、生鮮魚介などの食料費、被服費、住居費も上昇した。

なお、43年度平均の消費者物価(全国)の上昇率は総平均で前年度比+4.9%と、41年度(+4.7%)および42年度(+4.2%)を上回る上昇となったものの3年連続4%台にとどまった。これは、たばこ、理容衛生、教養娯楽などの雑費や、消費者米価の大幅引上げを映じて主食など食料費がかなり

工業製品生産者物価の推移

(単位・%)

	ウエイト	前年度 比上昇率 43年度 平均	最近の推移			
			44 年			
			12 月	1 月	2 月	3 月
総 平 均	100.0	+0.3	+0.1	+0.1	保 合	保 合
食 料 品	12.6	+5.7	+0.3	-0.1	+0.2	+0.3
天然および化学繊維	3.0	-4.7	-0.2	-0.1	-1.9	-1.4
合 成 繊 維	1.4	-6.4	-0.1	-0.5	-0.2	-0.3
織 物	2.8	-0.5	-0.2	-0.2	-0.4	-0.4
繊維二次製品	3.2	+5.3	-0.4	+0.6	+0.2	-0.1
普通鋼鋼材	7.2	-5.3	-0.3	-0.9	-0.3	+0.2
特殊鋼鋼材その他	2.5	-2.1	保 合	-0.5	+0.2	保 合
非 鉄 金 属	4.4	-0.5	+3.2	+1.7	+1.4	-0.4
金 属 製 品	4.6	+0.6	保 合	保 合	保 合	-0.1
一 般 機 械	10.4	+2.1	保 合	+0.4	+0.2	+0.1
輸 送 機 械	8.3	-1.6	保 合	-0.1	保 合	保 合
電気機械器具	9.1	-1.0	保 合	-0.1	保 合	-0.2
石油・石炭製品	3.7	-1.3	+0.1	-0.7	-0.6	-0.5
木材・同製品	5.0	+5.1	-0.3	+1.4	+0.5	-0.2
窯 業 製 品	3.4	+0.9	+0.3	保 合	-0.2	-0.2
化 学 品	7.8	-2.6	-0.2	-0.2	-0.2	+0.3
紙・パルプ・同製品	4.5	-0.1	-0.3	+0.1	-0.4	保 合
雑 品 目	6.1	+0.2	+0.1	+0.1	+0.1	+1.8

(注) 本行調べ。

上昇したためで、光熱費は暖冬の影響もあって大幅上昇にとどまった。

(3月の交易条件——前月と変わらず)

3月の輸出物価は、前月比+0.3%と続騰した。これは、食料品(冷凍まぐろ、乾燥しいたけ)、化学製品(アクリロニトリル)、金属・同製品(普通線材、線製品)、雑品目(合板、鯨油)がいずれも上昇したためで、繊維品(綿織物)だけが下落した。一方、輸入物価も前月比+0.3%と昨年9月以来7ヵ月間続騰した。品目別にみると、雑品目(木材、天然ゴム、牛脂)、機械器具(航空機用原動機)、食料品(粗糖、羊肉)が大幅に上昇した反面、金属(鉄鉱石)、繊維品(原毛)等は下落した。この結果、交易条件指数は99.6と前月並みにとどまった。

なお、43年度平均では、輸出物価が前年度比+0.6%と42年度の+0.2%をやや上回る上昇を示したが、これは機械器具、非金属鉱物製品等の上

消費者・輸出入物価の推移

(単位・%)

		ウ エ イ ト	前年度比 上 昇 率		最近の推移			最 月 前 同 比	
			42 年 度 平 均	43 年 度 平 均	44 年				
					2 月	3 月	4 月		
消 費 者 物 価	東 京	総 合	100.0	+4.1	+5.2	+0.3	+1.0	+1.3	+ 5.4
		(季節商品 を除く)	91.4	+3.9	+5.6	-0.2	+0.1	+1.1	+ 5.2
		食 料	40.9	+5.7	+6.5	+0.9	+2.4	+0.7	+ 6.7
		住 居	10.7	+3.7	+2.4	+0.3	-0.5	+0.3	+ 1.8
		光 熱	4.5	+0.1	+0.3	-0.1	-0.1	保 合	- 0.1
		被 服	13.0	+3.0	+5.5	-0.9	+0.7	+0.9	+ 6.0
		雑 費	31.0	+3.4	+5.3	-0.1	+0.2	+2.6	+ 5.6
全 国	総 合	100.0	+4.2	+4.9	保 合	+1.0		+ 3.9	
	(季節商品 を除く)	91.4	+3.9	+5.3	-0.1	+0.3		+ 4.9	
	人口の 5都府 市	総 合	100.0	+4.1	+4.9	保 合	+1.1		+ 4.0
輸 入 物 価	約 束 ベ ー ス	総 合	91.3	+3.9	+5.3	-0.2	+0.4		+ 5.0
		輸 出		+0.2	+0.6	+0.3	+0.3		+ 1.0
		輸 入		-0.4	-0.3	+0.2	+0.3		- 0.6
交易条件			+0.7	+0.9	+0.1	保 合		+ 1.5	

(注) 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。

昇によるものである。一方、輸入物価は前年度比-0.3%の微落となった。品目別にみると、金属、化学製品が反騰の反面、食料品、鉱物性燃料が続落した。

◇国際収支は引き続き好調

3月の国際収支は、総合で190百万ドルの黒字(前月は同186百万ドル)と引き続き好調を示した。これは、貿易外収支や移転収支が季節的事情などから赤字幅を拡大した(それぞれ137百万ドルおよび39百万ドルの赤字)うえ、長期資本収支もかなりの流出超となった(赤字額51百万ドル、前2ヵ月はともに流入超)が、貿易収支が季節性に一時的要因も加わって430百万ドルの大幅黒字となったためである。

当月の貿易収支は季節調整後でても357百万ドルの記録的な大幅黒字となった(前月は276百万ドル、前々月は322百万ドルの黒字)。もっとも、これには船舶引渡しの集中などから輸出が異常高となったことなどが大きく響いており、それらを考慮すれば、貿易収支の黒字幅が当月とくに

これまでより拡大したとは考えられない。

長期資本収支は、前記のとおり前2ヵ月流入超を続けたあと当月は流出超に転じたが、これは、主として船舶輸出の急増に基づく延払い信用供与の増加とガリオア・エロア債務の定期返済実行(18百万ドル)とによるもので、民間インパクト・ローン受入れ、外債発行、外国投資家の株式投資などは依然高水準を続けている。

金融勘定では、外貨準備が127百万ドルの大幅増を示し、また、為替銀行の対外ポジションも、外銀借入れが期末月の関係で相当増加したものの、他方で買持ち輸出手形がこれを上回って増加したため60百万ドル好転した。

3月の輸出は前年同月比で+32.1%、季節調整後の前月比でも+9.1%と著伸した。ただ、これには、前2ヵ月低調であった船舶の輸出が当月は急増したこと(通関ベースの船舶輸出額、1月74、2月63、3月179各百万ドル。例月は100百万ド

輸出入指標の推移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支			通 関		輸出信用 状	輸出 認証	輸入 承認
	輸出	輸入	貿易 じり	輸出	輸入			
43年								
4～6月	1,045	820	225	1,064	1,041	846	1,122	945
7～9月	1,074	868	206	1,098	1,107	881	1,162	997
10～12月	1,158	895	263	1,174	1,142	956	1,234	1,047
44年								
1～3月	1,224	906	318	1,248	1,147	1,024	1,254	1,063
43年11月	1,192	902	290	1,201	1,148	956	1,214	1,054
12月	1,167	910	257	1,188	1,158	974	1,263	1,075
44年1月	1,228	906	322	1,242	1,154	1,039	1,215	1,112
2月	1,169	893	276	1,194	1,123	1,070	1,201	999
3月	1,275	918	357	1,310	1,162	964	1,347	1,078

(注) 1. 季節調整は、センサス局法による。

2. 四半期計数は月平均額。

ル程度)、韓国に対する米の貸付けが行なわれたこと(当月の積出しは10百万ドル)などの特殊要因がかなり影響している。商品別輸出動向(通関ベース)をみると、合繊、電気機器、自動車等が相変わらず好調を続けているのをはじめ、鉄鋼も、米国向けの停滞にもかかわらず、東南アジア、西欧向けの伸長から高い伸びを示し、また船舶、食料も上記の特殊事情により目だって増加した。

3月中の輸出信用状接受額は前年同月に比べ+21.4%と前月までの伸び(+31～34%)を相当下回り、季節調整後では前月に比し9.9%の減少となった。しかし、これは前2ヵ月の増勢がとくに著しかったことの反動とみられ、輸出の動きにさほど大きな変化が生じたとは認められない。ちなみに1～3月を通じてみれば、前期を7.1%上回る(季節調整後)高水準にあり、また4月にはいつてからも比較的順調な足どりを示している。

一方、輸入は、前年同月比+10.2%、季節調整後の前月比+2.8%と、多少低めであった前月(前年比+5.4%、季節調整後前月比-1.4%)に比べれば若干の増加を示したが、大勢としては引き続き落ち着いた動きにとどまっている。商品別の動き(通関ベース)をみると、小麦、非鉄金属、原油等がかなり増加した反面、木材、化学品等は小幅の増加にとどまり、また、飼料(こうりゃん等)、

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	43 年			44 年			前 年 同 月
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	1月	2月	3月	
経 常 収 支	504	649	186	△175	107	254	27
貿易収支	845	1,022	612	△45	227	430	185
輸 出	3,327	3,746	3,283	836	1,080	1,367	1,035
輸 入	2,482	2,724	2,671	881	853	937	850
貿易外収支	△317	△325	△375	△124	△114	△137	△117
移転収支	△24	△48	△51	△6	△6	△39	△41
長期資本収支	7	△123	45	43	53	51	△61
基礎的収支	511	526	231	△132	160	203	△34
	(285)	(293)	(574)	(235)	(209)	(130)	(△77)
短期資本収支	31	76	△10	△11	△12	△13	△7
誤差脱漏	△1	△15	△57	△45	△38	△26	7
総 合 収 支	541	587	278	△98	186	190	△34
金 融 勘 定	541	587	278	△98	186	190	△34
外貨準備	384	531	322	44	151	127	△35
増減その他	157	56	△44	△142	35	63	1
外貨準備高	2,360	2,891	3,213	2,935	3,086	3,213	1,963
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△857	△789	△830	△934	△890	△830	△1,234

(注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。

2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。

3. 金融勘定の△印は、純資産の減少。

大豆、綿花、くず鉄等も、米国の港湾ストライキの影響もあって前月に引き続き前年の水準を下回った。

先行指標の輸入承認額は前年同月比+13.3%(前月同-5.0%)となった。月によるかなりのフレをならすため3ヵ月移動平均(季節調整済み)してみると、43年11月1,047、12月1,080、44年1月

1,062、2月1,063各百万ドルとなり、増勢は比較的ゆるやかに見受けられる。なお、輸入素原材料在庫の状況を見ると、2月には久方ぶりに在庫、在庫率とも低下したが、その水準は全体としてなお低くないと思われる。

通 関 輸 入 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	(単位・百万ドル)					
	通 関 輸 出 の 内 訳					
	43 年	44年	44 年			
	7~9月	10~12月	1~3月	1 月	2 月	3 月
食 料 品	111	128	103	31	29	43
	(+ 7)	(+ 19)	(- 1)	(+ 11)	(- 34)	(+ 34)
魚 介 類	73	85	53	17	18	18
	(+ 4)	(+ 22)	(- 26)	(- 10)	(- 46)	(- 9)
繊維製品	513	613	472	116	168	187
	(+ 21)	(+ 27)	(+ 29)	(+ 52)	(+ 22)	(+ 23)
綿 織 物	60	74	51	12	19	20
	(+ 3)	(+ 7)	(+ 12)	(+ 39)	(+ 9)	(+ 4)
合繊維物	103	131	97	21	35	40
	(+ 44)	(+ 30)	(+ 41)	(+ 57)	(+ 31)	(+ 42)
化学製品	219	231	200	56	66	78
	(+ 22)	(+ 33)	(+ 34)	(+ 51)	(+ 28)	(+ 30)
非金属	82	95	85	21	28	36
鉱物製品	(+ 11)	(+ 22)	(+ 20)	(+ 20)	(+ 12)	(+ 26)
金属製品	615	663	604	150	206	248
	(+ 34)	(+ 33)	(+ 25)	(+ 17)	(+ 27)	(+ 28)
鉄 鋼	455	480	448	110	154	185
	(+ 38)	(+ 37)	(+ 27)	(+ 12)	(+ 34)	(+ 32)
機械機器	1,462	1,673	1,547	392	486	669
	(+ 27)	(+ 36)	(+ 33)	(+ 26)	(+ 27)	(+ 43)
(船 舶 を除く)	1,183	1,402	1,232	318	423	490
	(+ 35)	(+ 46)	(+ 40)	(+ 48)	(+ 38)	(+ 36)
テレビ	84	86	61	16	22	23
	(+ 76)	(+ 87)	(+ 56)	(+ 71)	(+ 48)	(+ 55)
ラジオ	119	131	106	27	36	43
	(+ 29)	(+ 35)	(+ 46)	(+ 57)	(+ 39)	(+ 45)
自動車	185	213	214	52	75	87
	(+ 98)	(+ 65)	(+ 56)	(+ 53)	(+ 57)	(+ 57)
船 舶	278	271	316	74	63	179
	(+ 2)	(+ 2)	(+ 13)	(- 23)	(- 16)	(+ 63)
光学機器	98	109	89	23	31	35
	(+ 20)	(+ 28)	(+ 22)	(+ 32)	(+ 25)	(+ 14)
そ の 他	386	406	344	93	115	136
	(+ 14)	(+ 26)	(+ 26)	(+ 47)	(+ 17)	(+ 22)
合 計	3,387	3,807	3,355	859	1,100	1,395
	(+ 24)	(+ 32)	(+ 29)	(+ 30)	(+ 22)	(+ 33)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

	(単位・百万ドル)					
	通 関 輸 入 の 内 訳					
	43 年	44年	44 年			
	7~9月	10~12月	1~3月	1 月	2 月	3 月
食 料 品	445	487	504	162	167	174
	(+ 8)	(+ 7)	(+ 9)	(+ 16)	(+ 4)	(+ 8)
小 麦	74	73	72	19	25	29
	(- 7)	(+ 1)	(- 2)	(- 15)	(- 16)	(+ 30)
とうもろこし	54	63	59	22	20	17
	(+ 8)	(+ 9)	(+ 1)	(+ 25)	(+ 17)	(- 28)
砂 糖	26	32	53	16	17	20
	(- 1)	(+ 12)	(+ 16)	(+ 48)	(+ 11)	(+ 2)
原 燃 料	1,865	1,965	1,919	656	606	658
	(+ 13)	(+ 9)	(+ 7)	(+ 13)	(+ 3)	(+ 6)
羊 毛	92	93	99	33	31	35
	(+ 2)	(+ 19)	(+ 20)	(+ 30)	(+ 19)	(+ 14)
綿 花	114	116	108	34	39	36
	(+ 25)	(+ 32)	(- 14)	(+ 14)	(- 11)	(- 33)
鉄 鉱 石	210	219	218	73	67	77
	(+ 16)	(+ 22)	(+ 17)	(+ 18)	(+ 15)	(+ 16)
鉄鋼くず	32	54	32	19	8	5
	(- 67)	(- 25)	(- 19)	(+ 43)	(- 43)	(- 57)
大 豆	66	70	66	28	22	16
	(+ 9)	(- 3)	(- 6)	(+ 31)	(- 19)	(- 24)
木 材	300	297	265	87	86	91
	(+ 19)	(+ 16)	(+ 6)	(+ 13)	(+ 1)	(+ 6)
石 炭	135	135	149	42	54	52
	(+ 38)	(+ 25)	(+ 22)	(+ 14)	(+ 35)	(+ 16)
原 油	404	454	464	154	143	166
	(+ 22)	(+ 3)	(+ 11)	(+ 10)	(+ 5)	(+ 19)
化学製品	174	193	185	66	57	62
	(+ 13)	(+ 16)	(+ 12)	(+ 22)	(+ 5)	(+ 9)
機械機器	306	350	364	95	130	140
	(+ 25)	(+ 23)	(+ 10)	(- 8)	(+ 16)	(+ 19)
鉄 鋼	56	75	66	17	27	21
	(- 39)	(- 30)	(+ 3)	(- 25)	(+ 10)	(+ 30)
非鉄金属	145	190	212	68	68	76
	(+ 0)	(+ 13)	(+ 32)	(+ 14)	(+ 37)	(+ 48)
そ の 他	178	187	172	57	56	59
	(+ 30)	(+ 30)	(+ 19)	(+ 25)	(+ 12)	(+ 22)
合 計	3,169	3,445	3,422	1,122	1,111	1,189
	(+ 12)	(+ 10)	(+ 10)	(+ 11)	(+ 7)	(+ 11)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。